

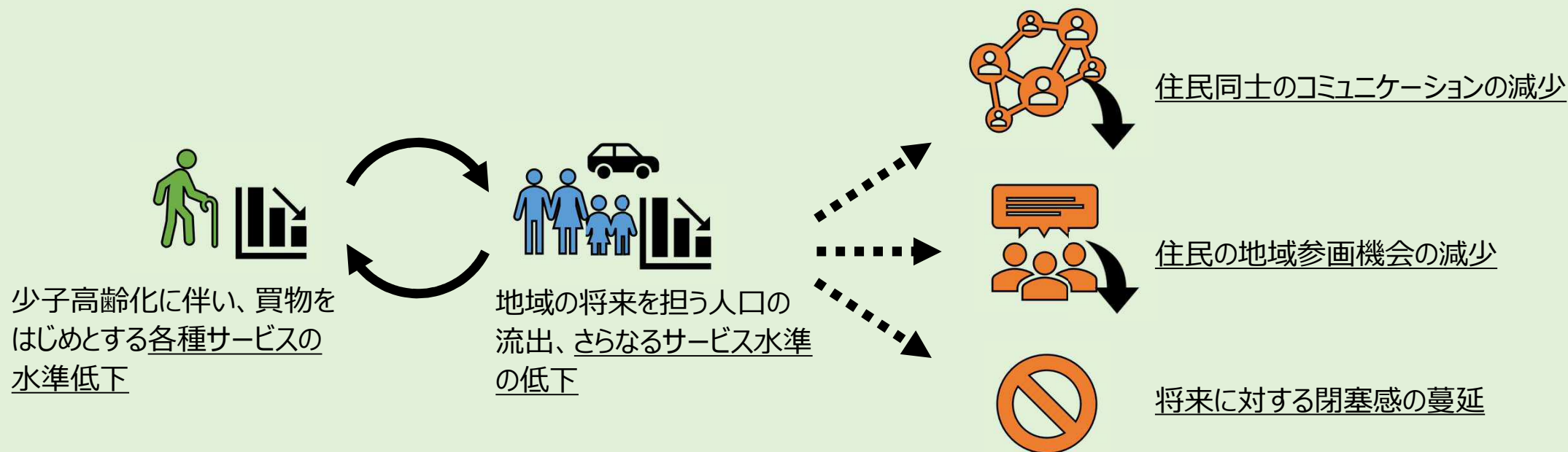
共助型買物サービス 「おたがいマーケット」概要

日本郵便株式会社 事業共創部

2024年9月30日

ローカルをとりまく状況

奈良市東部地域から見たもの



不可避の少子高齢化により、各種サービス水準低下と人口減のスパイラルに
人口が減少することにより、地域の活力が包括的に低下
こうした状況が、面的に、かつ急速に進行

作りたい仕組み

人口が減少しても、
みんなで一定の利便性を確保しつつ、
歩み寄りで何かが生まれ続ける環境

【求められるソリューションの方向性】

- マーケットの縮小は避けられないため、従来のサービスモデル（自助・公助によるフルサービス）は継続が困難
⇒**「共助」による新しいサービスモデルを構築**
- 単に利便性を高めるだけでは、コミュニケーションや地域参画機会の減少等、関係性の衰退に歯止めはかからない
⇒**住民同士の接触を生活に組み込む**



住民同士の助け合い、住民・企業・自治体それぞれの歩み寄り等、

「共助」をキーに、住民も参画する形で持続可能なサービスを作る必要がある



商品を
積載

	奈良中央	名荷	東山	波多野(着)	波多野(発)	東山	名荷	奈良中央
1号便	7:10	7:35	8:03	8:31	9:09	9:34	10:02	10:30
2号便	12:00	12:25	12:53	13:21	13:29	13:54	14:22	14:50
3号便	15:15	15:40	16:08	16:36	17:09	17:34	18:02	18:30

共助型買物サービス「おたがいマーケット」

- 2024年3月27日、奈良市東部地域でスタート
- 毎月定額（サブスク）を負担いただくことで、地域内の拠点で、ネットスーパーの商品が受け取れるサービス
 - ※ 生鮮食料品や日用品、医薬品も含めて注文の翌日に配達
 - ※ 既存物流の余積を活用して輸送するため、1日あたりの受注件数には上限あり
- 住民・自治体・企業等、関係者がお互いに歩み寄ることでコストを抑制し、持続可能な形で提供
- 受取先拠点は、地域内のコミュニケーションを経て設定（地域づくりへの小さな参画）
- 受取先拠点を使って何をするかは、地域住民に委ねられる（各々のやりたいことをやる空間）

生活利便性

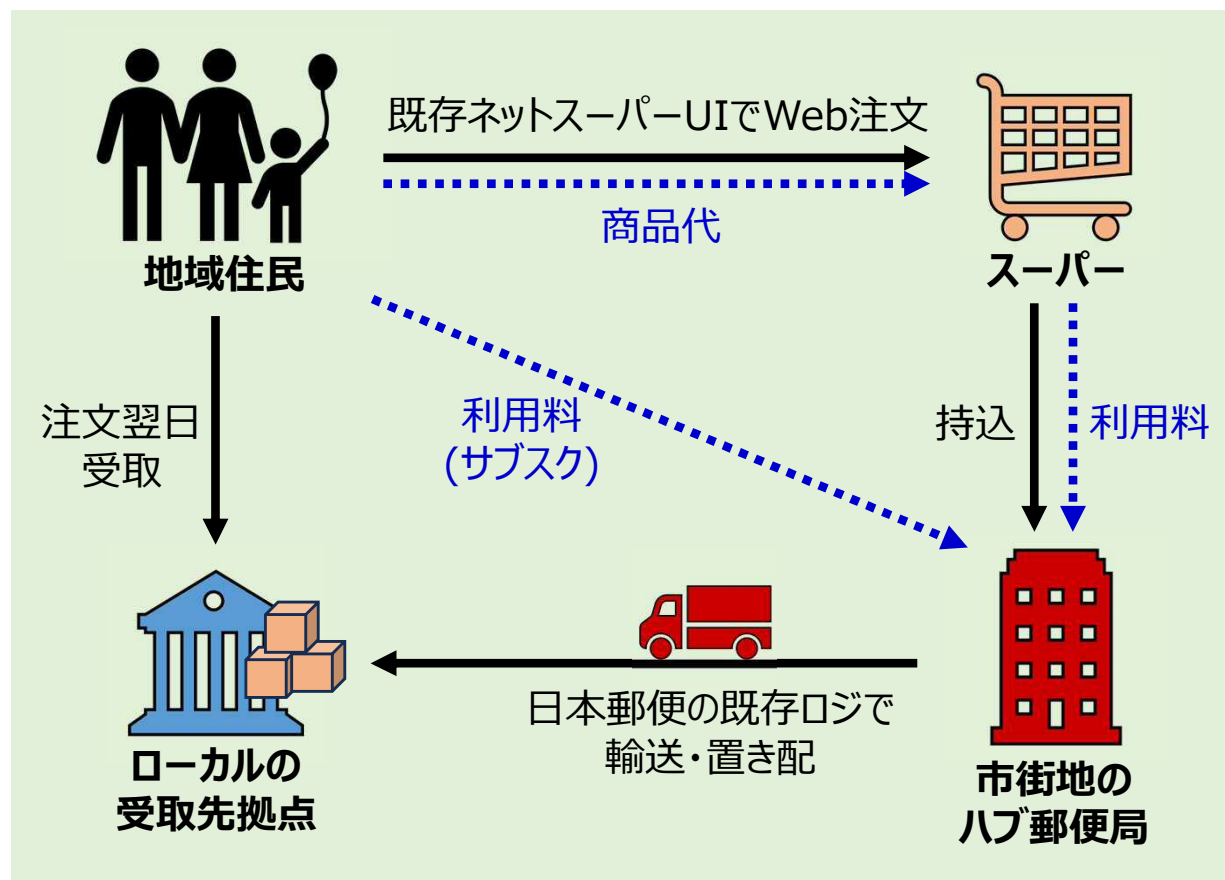
歩み寄りによってコストを抑制することで、利便性が生まれる

共助

住民自ら参画することで、地域に共助・自治の素地が生まれる

地域参画

買物という行動を通じて、地域内に自分の居場所・出番ができる





共助型買物サービス「おたがいマーケット」

目指すインパクト

本サービス自体が
直接生むインパクト

サービスの導入検討

自治体や地域プレイヤーによる問題提起。「今後、買物どうしていく?」「この地域でどう暮らしていく?」

地域拠点の選定・運営管理方法の決定

買物という日常的な行為のため、各住民が自然な形で公共空間へ小さな参画

サービスの開始

共同利用により、買物アクセシビリティという地域課題への具体的ソリューション（利便性）を獲得

住民による地域拠点の運営

コミュニケーションを通じ、各自が拠点に小さな機能を付与。おしゃべり? 習い事? (地域参画)
単独で利用しにくい人への拡張 = 助け合いの検討。お隣の高齢者宅の分まで注文・持ち帰り?

機能拡張の検討

地域の将来を見据え、地域拠点にどんな機能が必要かの相談

拡張機能の実装

買物に重ねて、住民が自ら選択した機能を実装（共助・自治の定着）

利用者により
生まれるインパクト